

<別添資料④>

【 指導略案書式 】

〇〇部〇部門〇年生活指導略案

〇〇〇〇 →MTの名前を記入する。

1. 日時 平成 26 年 10 月 23 日(月) 11:00~11:50 13:20~14:10
2. 場所 視聴覚室 (一斉) ⇒Aグループ=視聴覚室、 Bグループ=パソコン室 (課題別)
→わかりやすく記入する。
3. 単元名 『“卒業後” を考えよう』(仕事の種類と意義)
4. キャリアの観点 → **本題材(進路学習)についての小中学部からの取り組み、今後の取り組みの展望及び予定を記入する。さらに本時の学習内容の習得を図るため、どのように日常生活に般化していくのかを記入する。文章・箇条書きなど、形式は問わないので、学年で周知しやすい方法をとってください。**
5. 本時の目標 →**個々の生徒・学級の実態や特性をふまえた目標を記入する。**
 - 3 組 →◎勤労の意義について理解し、高校卒業後にどのような仕事に就きたいか、理由も合わせて考え表出することができる。
 - 1, 2 組 →◎高校卒業後の仕事や作業の内容を理解し、活動の中での自分の役割について意識することができる。
6. 本時の展開→「**学習活動**」は児童生徒の立場から、「**指導上の留意点**…」は教師側の立場から記入する。**指導上の留意点の中でも“わかる”ための手だて」として、全体に関わる配慮(UD化)を「△」で、個に関わる配慮(合理的配慮)を「▼」で示す。なお、日々の実践の中で、MTは指導案を1週間前に指導団体(学年及び学級)に示すよう努める。**

時程	学習活動	指導上の留意点 (・) “わかる” ための手だて (UD化△、合理的配慮▼)	準備物
11:00	はじまりのあいさつをする。(1組日直)	△授業始まり時に、MTが生徒の座席配置を前面黒板に写真を貼付して示しておく。 ▼「お願いします」の言語表出ができない生徒に対して、サインや礼によるはじまりのあいさつができるよう促す。 → STに特に配慮してもらいたいことを記入する。STはこの内容を受けて、それぞれの児童生徒の合理的配慮の手だてを用意する。	

7. 評価→「5」で示した目標を受けた評価の観点を記入する。特に「**目標と評価の一体化**」に留意しながら評価を設定する。
8. 配置図 児童生徒や担当教員、教材教具の配置を図で記入する。